

5. 温水利用型健康運動施設設計画（建築計画）

(1) 空間構成イメージ

公園施設としての建物は、建物内部で完結するのではなく、外部空間の公園との関係が重要な要素であり、公園全体で動線・空間構成を考えていく必要がある。

●空間構成イメージ図



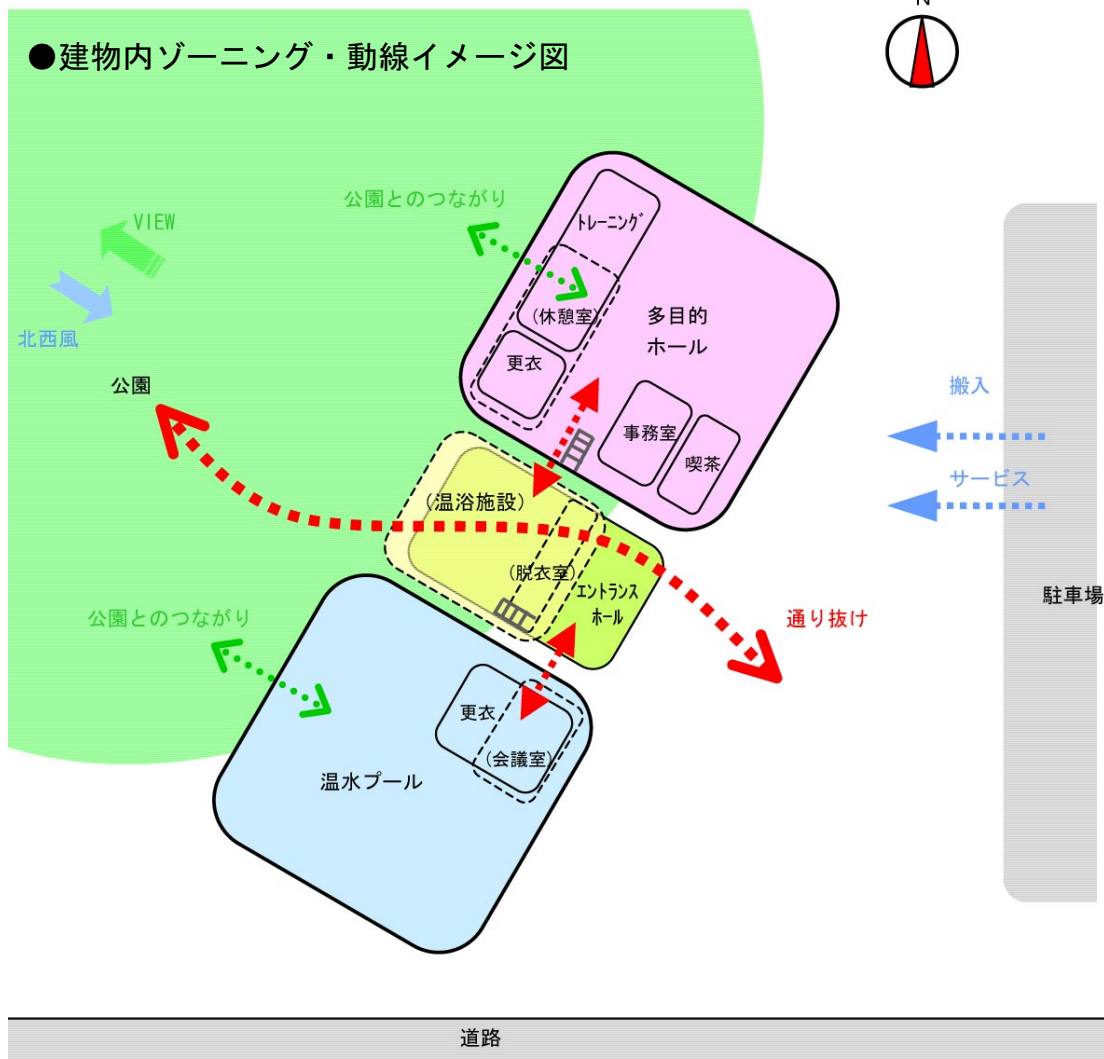
（２）施設内容・規模設定＜案＞

温水利用型健康運動施設内容・規模は以下のとおり設定する。

なお、各施設及び動線計画にあたっては、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に関連する諸基準を遵守する。

	施設名	施設内容	収容人数	規模
主要施設	温水プール施設	・余熱利用による 25mプール、小児用プール、ジャグジー・シャワー室等を計画する。	500名	1,500㎡
	温浴施設	・余熱利用による 男女別浴室、サウナ、寝湯、打たせ湯等を計画する。	200名 (男女各100名)	600㎡ (300㎡×2)
	多目的ホール	・地域のスポーツ振興に寄与できる施設を計画する。 ・バスケットボール、バレーボール等の競技が可能なものとする。	500名 (集会時)	1,100㎡
	トレーニング室	・各種フィットネスマシン（有酸素系、筋力系、リラクゼーション系）の設置を計画する。	60名	250㎡
	休憩室	・各施設利用後の休憩の場 ・飲食のできる場として和室を計画する。	100名	200㎡
	会議室	・10～100名程で利用できる会議室を計画する。 ・間仕切りによる分割が可能なものとする。	100名	150㎡
小計				3,800㎡

	施設名	施設内容	収容人数	規模
共用施設	エントランスホール	・公園、建物への導入ホール ・公園利用者のコミュニティー・休憩の場 ・各施設をつなぐ大きな動線・待合の場 ・総合案内・ロビー		500㎡
	トイレ	・必要な箇所に多目的トイレを含め計画する。	同時滞在者数から算出	400㎡
	更衣室	・温水プール施設・温浴施設等各施設にあった更衣室を計画する。	各施設の利用者数	500㎡
	事務室	・事務室、管理詰所等	25名程度	1,800㎡
	倉庫	防災備蓄庫等		
	機械室	熱交換機、浄化機、空調等		
	その他	売店（農産物直売コーナー）、軽食堂等、キッズルームなど		
小計				3,200㎡
合計				7,000㎡



（3）余熱利用システム

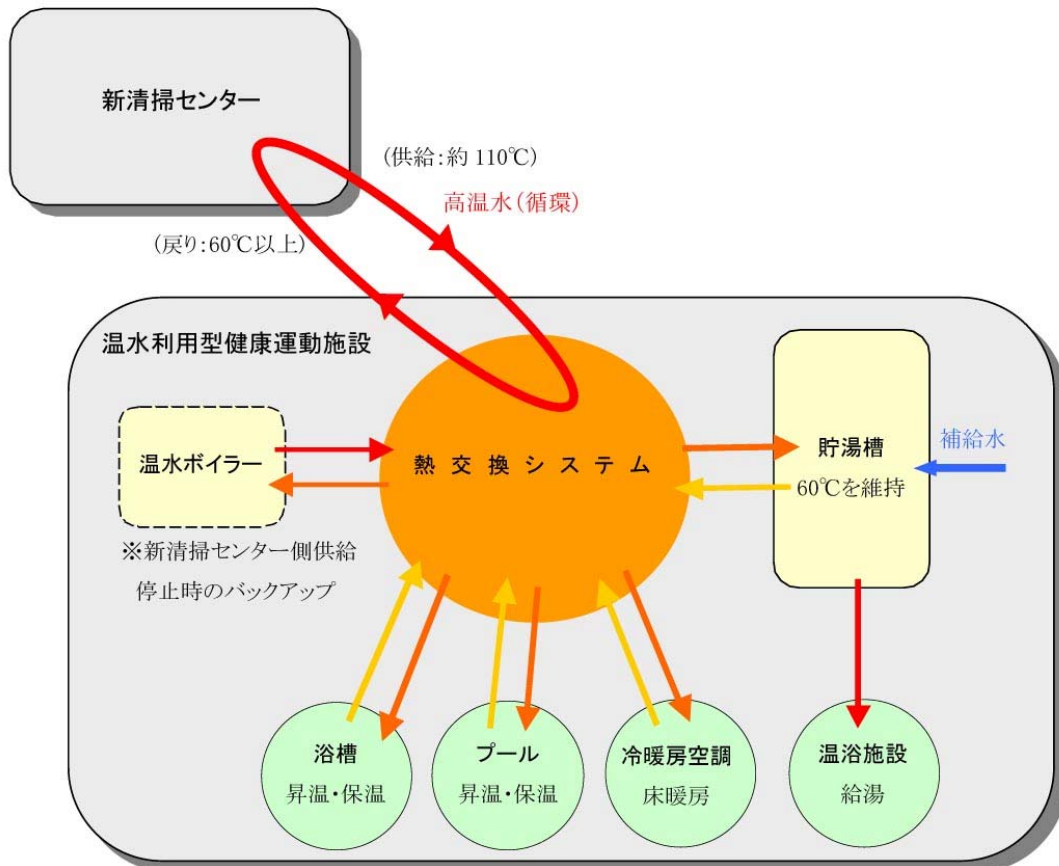
①（仮称）新清掃センターからの供給熱量

- ・（仮称）新清掃センターからは高温水により、約 5.0GJ/H の熱供給を受けるものとする。また、（仮称）新清掃センター側との調整にもよるが、同センター熱回収施設の定期点検等による高温水の供給停止時に備え、温水ボイラー等の設置についても検討する。

②施設内における熱利用

- ・ プールの水替え時の昇温や、プール水温の保温に利用する。
- ・ 温浴施設内浴槽の水替え時の昇温や、浴槽温度の保温に利用する。
- ・ 冷暖房空調・床暖房の熱源として利用する。
- ・ 施設内におけるシャワー等、給湯用貯湯槽の熱源として利用する。

●余熱利用システム概念図



6. 環境配慮計画

本公園計画地は、入間川の伏流水が源と言われる「湧水」が至る所で見られ、また、周辺を見ると一面の田園地帯が広がる自然豊かな場所である。また、近年では隣接する小畔川の堤防を利用した散策等が盛んに行われている。

このような場所に本公園を整備するにあたり、次の事項を配慮した計画とする。

なお、施設建設及び維持管理においては、環境の保全に関する法令及び県・市の条例、及び「川越市環境基本計画」を遵守する。

（1）自然環境

- ・総合公園として、市民の総合的な利用を確保しつつ、優れた自然環境を有する本公園の立地特性を踏まえた水流れ、湿地、林等を有機的に配置することにより、多様な生物の生息空間を確保する。また、周辺の小畔川と併せ緑のネットワークとして機能するよう考慮する。
- ・水辺における親水空間や林における木陰等を創出し、市民が自然とふれあう空間を確保する。

（2）環境負荷

- ・二酸化炭素の吸収やヒートアイランド現象の緩和等の対策のため、公園の緑被率の上昇に努めるとともに、温水利用型健康運動施設については壁面緑化、屋上緑化について考慮する。
- ・植物への散水やトイレの水等については、雨水や循環水の有効利用について考慮する。
- ・施設建設については、省エネルギータイプに配慮するとともに、太陽光や風力等を活用した自然エネルギーや燃料電池等の新エネルギーを導入し、自給率の増加について考慮する。
- ・園内で発生した樹木剪定枝等については、チップ化や堆肥化により、極力、園内での再利用を図る。（マルチング、クッション材等）

（3）周辺環境

- ・水害等に備え、雨水調整池を必要容量分確保し、雨水流出抑制を図るよう配慮する。
- ・周辺の農業や動植物の生態系に影響等が生じないよう、光害に配慮した照明器具の選定について考慮する。

（4）景観配慮

- ・公園に隣接する（仮称）新清掃センター、高圧送電鉄塔については、極力その存在を感じられないよう、周辺に緑陰を確保しながら、公園全体の一体的な景観として違和感が生じないように考慮する。
- ・北側エリアの小畔川堤防に沿った範囲はサクラを主体とした植栽計画とし、小畔川における桜づつみと連続して一体的な景観を形成する。
- ・温水利用型健康運動施設については、公園施設として周辺環境と調和したデザインとする。